

知っているようで知らない精華町  
その魅力を再発見するタブロイド。



明日の農業を担う若者や研究者が集う  
キャンパスを、一度、訪ねてみませんか。  
東の芝生広場や水生花園は広く市民に  
開放され、西エリアでは農場実習で収穫  
された野菜の販売や、講演や子どもが  
農業体験できるイベントもあります。

# みづける

seika



京都府立大学精華キャンパス

私たちの身の回りにある野菜や果物、  
花々、稲や大豆などの穀物類は、野生のま  
までは収穫量も少なく、味や姿も素朴な  
植物が大半です。それらを、生産農家が栽  
培しやすく、おいしさと高い栄養価で消  
費者の心を動かす食卓の主役に育てあげ  
るためには、知恵と工夫、絶え間ないチャ  
レンジが欠かせません。  
いま、そして明日の農業を支える最先  
端の研究と実践、そのフィールドが精華  
町にあることをご存知ですか。京都府立  
大学の精華キャンパス(北稲八間大路)です。

里山に囲まれた14・6ヘクタールの広  
大なキャンパスには生命環境学部附属  
農場があり、多様な品種の果樹や野菜が  
栽培されています。学生たちは遺伝子工  
学や果樹園芸学など5つの研究室に所属  
し、畑や田んぼで汗を流しつつ、のびのび  
と学びます。  
京都府農林水産技術センターの生物資  
源研究センターも隣接し、ここからは全  
国にもファンが多い「京のブランド産品」  
の紫ずきん(黒大豆エタマメ)や万願寺甘と  
うも誕生し、進化を続けています。



本文はこちらのQRコードから  
オンラインでもご覧頂けます。

# 京都府立大学・精華キャンパスは 2011年に設置されました。



現在は、生命環境科学研究科・農学生命科学科の「果樹園芸学」「野菜花卉園芸学」「細胞工学」「資源植物学」「遺伝子工学」の5研究室を備え、9人の教員と4年生や大学院生あわせて常時40人以上が研究にあたるほか、毎週、下鴨キャンパスから3年生が実習にやってきます。さらに、新入生は田植えを、2年生も夏期集中講座で農業の基礎を体験します。学生らに加えて、ベテランの技術補助職員たちもきめ細かい手入れを担い、研究を支えています。



## 西エリアの附属農場を案内していただきました

ピラミッド型の三角屋根が印象的な本館(管理棟)の西側には、稲が実る約8反(8000㎡)の水田が、北側には畑地が広がります。畑地ではナスやトウガラシなど夏野菜の収穫が終わり、ダイコンやカブ、ラディッシュ、ハクサイなど秋冬野菜の栽培が始まっています。



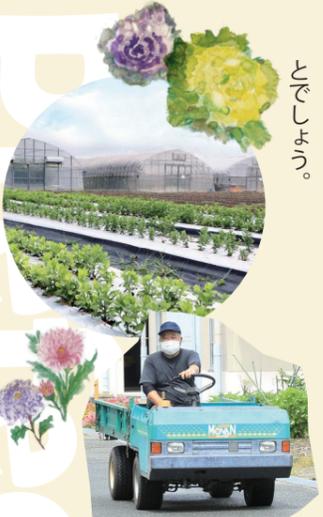
## 収穫を待つサトイモの大きな葉が茂っていました

サトイモは縄文時代から栽培されており、京のエビイモなども有名です。しかし、花が咲くことが珍しいため品種改良が進んでいません。西島隆明教授(野菜花卉園芸学)らは開花を促し、他の品種と交配させる試みを通してサトイモの未知の能力を引き出そうとしています。



## 花もたくさん植えられています

多様な秋菊やパンジー、ヒオウオ、冬の寄せ植えに人気のハボタンも。春に向けて華やかなストックやトルコキキョウの種まきも始まります。冬を越え、春にはペチュニアやシャクヤク、鉢植えのケイトウ、トレニアもほ場を彩ることでしよう。



## 畑の向こうは果樹園です

ブドウ、ナシ、モモ、リンゴ、ミカン、カキ…。年間を通してバラエティに富んだ果物がたわわに実ります。バイクで軽快に場内を巡る板井章浩教授(資源植物学)に出会いました。



ブドウやカキは50種類はあります。ナシは「高接ぎ」で100種類ほどを育てているんですよ。



みると、1本の木のあちこちに違った品種の実が成っています。限られた敷地で効率よく栽培できるだけでなく、多様な品種を早く実らせて研究に役立てることもできます。

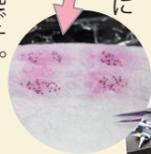
板井教授は「幻のブドウ」のブランド化も目指しています。江戸時代に京都で栽培されていた「聚楽」といい、1970年代に消滅したと思われていましたが、数年前に京都市内で発見されました。附属農場では接ぎ木から幼木を育て、古都の香りをまとう新しい特産品を産み出そうとしています。



## 本館に戻りましょう

館内には研究室が並んでいます

このうちの二室では、森本拓也講師(果樹園芸学)と学生が、ナシの花粉を数えていました。附属農場が保有する遺伝資源を利活用して、品種によって多様な花粉を観察・データを収集することで、新品種の育種につながる研究です。大学は、隣接する府農林水産技術センターの生物資源研究センターと連携していることも特徴です。



## キャンパスの東エリアは「産学公連携研究拠点施設」

民間企業も入居して、大学の研究成果を社会に活用する試みが続きます。たとえば、「ダチョウ抗体マスク」をご存知ですか? ウイルスなどの病原体を不活性化させるダチョウ抗体を使ったマスクで、花粉症やインフルエンザ対策への有効性がメディアでも話題になりました。拠点施設には、府立大発のベンチャー企業・オーストリッチファーマ株式会社もラボを構えています。



## 今、京都独自の酒米「祝」の新品種を開発、栽培中です

と所長。酒造会社と協力し、数年後には新しい美酒が市場に登場するそうです。

## 緑のフィールドで深呼吸!

産学公連携研究拠点施設のあるエリアは、かつて「花空間けいはんな」(旧京都フラワーセンター)として親しまれた施設です。メタセコイアの大き木が置かれ、展望台にはあずまやもあり、散策にぴったりです。棚田をイメージした水生花園では、春はアヤマカキツバタ、夏にはスイレンやハナハスも見事な花を咲かせます。簡単なアスレチック遊具もあります。

- 開園: 水曜から日曜
- 午前9時から午後4時半
- 入園・駐車料 無料



私たちの健康を支え、豊かな地域環境を守る活動の数々。次はどんなニュースが精華キャンパスから届くのでしょうか!



精華町観光ポータルサイトから、まちの魅力をみつけてください!

## 販売・農場ユ-カルチャーデー

収穫された農産物は毎週火曜と金曜に附属農場の玄関口で販売されます。現在は午前10時に現地で、入手の順番を決める抽選をしています。特に、ナシやブドウのシーズンは混雑し、入手できない場合もあります。日程変更もあるためホームページや農場に確認を。また、大学を紹介する「農場ユ-カルチャーデー」(夏はこどもの農業体験、秋は成人対象の講演会など)も好評です。いずれも問い合わせは、0774(93)3251 農場事務部

